

東京ホームタウン大学院2022

まちの縁側
プロジェクト

2023.03.01

山口 亮/古賀 節彦/矢島 義宏/中谷 真二/大谷 桃子

プロジェクトの目的

2022年7月から活動を始めた墨田区押上の住み開き拠点が裏路地にあって人通りがないため、街の人たちに認知されない

認知度を向上するために、自分たちから積極的に街に出ていく活動を検討、実践する事にした



プロジェクトの概要

フィールドワークの結果、曳舟駅近くの道路脇にある小さなスペースが借りられるので、ここを使って活動する事にした

毎週土曜の午前、駅前に「ヤッチャバ」という青空市が立つので、この時間に合わせて活動を実施



主な活動

- 2022.09.23 フィールドワーク（まち歩き）
- 2022.10.22 第一回活動：ボードゲーム
- 2022.11.26 第二回活動：フリーコーヒー・ココア
- 2023.01.07 シャボン玉勉強会
- 2023.01.14 第三回活動：フリーコーヒー・ココア
& シャボン玉
- 2023.02.12 シャボン玉フィールドワーク
- 2023.02.19 第四回活動：シャボン玉を飛ばす会

9/23 フィールドワーク（まち歩き）

街中には使えそうなスペースがいくつかあるが、
誰に使用許可をもらうのか...？



10/22 第一回活動：ボードゲーム

道路脇のスペースにちゃぶ台を持って行き、ボードゲームを始める
道行く人たちからは目を逸らされる



11/26 第二回活動：フリーコーヒー・ココア

寒空の下、温かいコーヒー・ココアを用意
前回の反省を込めて、色々と飾り付けしてみる



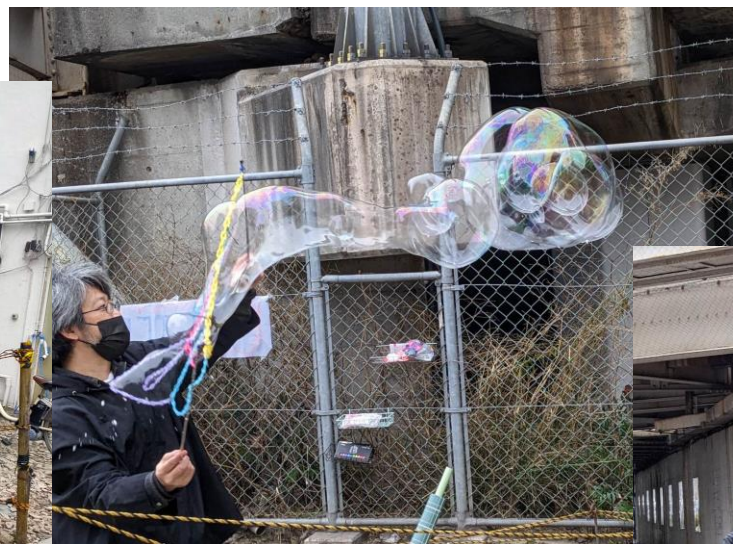
1/7 シャボン玉勉強会

代々木公園をホームグラウンドにしている泡師からシャボン玉についてレクチャーを受ける



1/14 第三回活動：フリーコーヒー・ココア & シャボン玉

前回の内容にシャボン玉を加えてみる
フェンスをはみ出していた草木は刈り取って、
見た目はだいぶ良くなった！？



共同研究者 の声

寒空の中、おじさんがチラシを配っても、中々受け取る人が居なかった

ココアや駄菓子につられて子供等数人は受け取ってくれた

通行人は自転車が多く、後は目を合わせない人も多いので、目をむかせるものが必要かもしれない

感覚的にはチラシを持って立っていると、我々には目は向かわないがチラシには目を向けてくれやすい印象

フリーココアどうですか？だと怪しさが拭えず、さりどて、寒いので飲みませんか？というのも同様に、怪しさを減らす&興味を持ってもらえる声かけ方の工夫が必要かもしれない

我々は敷地内で、通行人は道、と違う空間にいて横目に見られる存在だったが、公園とか同じ空間にいると違うのかもしれない。ただ適度な距離感が必要

ボードゲームやシャボン玉は、自分たちの楽しみとして、何かをやっている感はありましたが、通行人に対する訴求力はなく、公園のような場所でないと、なかなか立ち止まって見てもらえるような状況にはならず、うまく巻き込めなかった

クローズドな個人の集まりに見えるので、幟（のぼり）とか横断幕などでイベント感を出したい

課題の整理

話のキッカケをつくるのが難しい

自転車で通り過ぎる人の足を止めるのは難しい
→時間に余裕がないのかも？

何をやっているのか、何の目的でやっているのか、なかなか理解してもらえない（フリーコーヒーと言っても理解してもらえない）

知らないオジサンには、みんな近付かない

しかし...FACEBOOKの反応は良い

Facebookでは毎回100以上のリアクションがつく



2/12 シャボン玉 フィールドワーク

メンバー全員のスケジュールを合わせるのが難しかったので、2週に分けて活動を行った

1週目は、翌週の本番に向けたフィールドワークのつもりで

まち歩きしつつ子供の多い公園を探す
→シャボン玉を飛ばして反応を見る

の流れで実施

2/12 シャボン玉フィールドワーク

結果

同じようなサイズの公園をいくつか回ったが、子どもの数には大きな差があった

徒歩圏内にある2つの公園が、子どもが多く、広さ的にも、シャボン玉を飛ばしやすい事が分かった

しかし、片方の公園は、地面が全面、コンクリートで舗装されており、シャボン液が染み込まずに残ってしまう...

→子どもが走ると滑って転んでしまう

- ・シャボン液が溜まった場所では、できるだけ走らせない運用が必要
- ・そのまま帰る事はできないので、地面の清掃について要検討

2/12 シャボン玉フィールドワーク

シャボン玉を始めると、何もしなくても、勝手に子どもたちが集まってきて、シャボン玉を割ったり、自分もつくりたい！と言ってくる

大人（保護者）も警戒していない様子...今までの活動と、全然、反応が違う！



2/19 シャボン玉を飛ばす会

今回の活動で初めて、イベントとして告知
(Facebookのみ)

目的：地域の中で、活動する「仲間」を増やす



2/19 シャボン玉を飛ばす会

参加者

大人が集まる想定をしていたが、単独で参加した大人（オジサン）は2人だけ
他は、夫婦1組、母子4組という構成
子どもは未就学児～小学校2年生ぐらいまで

小学5年生と3年生の姉弟（姉妹かも？）がお父さんと参加予定だったが、お姉ちゃんの習い事のスケジュール変更があって、急遽キャンセルになってしまった

→年齢が上がるにつれて、子どもも気軽に遊べなくなる？

2/19 シャボン玉を飛ばす会

活動中

最初の公園は40～50分ぐらいで終了し、次の公園に移動

参加者は単独参加の2人を除き、最初の公園の活動が終わったところで離脱

子どもたちの集中力が続くのは、30～40分ぐらい

2時間の活動にフルに参加するのは難しい

→ 1時間ぐらいがちょうど良いかも？

しかし、2つめの公園では、1時間以上、ずっとシャボン玉づくりに釘付けの子が2～3名いた

また、入れ替わりで参加してくる（後から公園にやって来る）子どもも結構いる

結果、活動時間が30分以上延びてしまった

2/19 シャボン玉を飛ばす会



2/19 シャボン玉を飛ばす会

結果

単独参加の2人とは、押上の拠点に帰って軽い懇親会を行った
子連れの参加とそれ以外で、この場に求めるものや行動が大きく変わりそう

フィールドワーク同様、子どもは勝手に集まってくる
特に今回は、最初からシャボン玉を飛ばす側に子どもがいたので、他の子どもも自然とシャボン玉を飛ばす側に回っていた

大人は釣り竿を使った道具を使っていたが、大人と同じ道具を使いたがる子どもも割と多かった

子どもも一緒にやったためか、用意していたシャボン液（前回の残り、3ℓぐらい）は最初の公園で使い切り、途中でつくり直した

今後の展開

シャボン玉は子ども受けが良い

→シャボン玉クラブをつくり、地域のオジサンなど仲間を増やしていく

公園など場所を変えて実施してみる

持ち寄り屋台など、仲間をつくりながら広げていける活動

縁台、屋台づくりなどDIYしながらリソースをつくっていくワークショップ



この後の展開が気になる方は...

Facebookで、こちらをフォローしてください！

<https://www.facebook.com/100089228016855>

参考) シャボン玉の準備

洗面器

シャボン液を入れる
それなりに深く、間口の広いものが良い

道具

釣り竿 (同じくらいの長さの物を2本セットで使う)
伸縮タイプの指示棒 (100円ショップで購入)
チェーン (結束バンドでつないで輪っかをつくる)

シャボン液

食器用洗剤 (キュキュット) 1 : 選択のり (PVA配合) 1 : 水 8
1時間で5ℓぐらい

タオル、ウェットティッシュなど (手や道具がベトベトになるので)



参考) シャボン玉の道具

チェーンの組み方で「大玉」「連玉」「大連玉」の3種類の泡が作れる



小さい子どもには、
うちわの骨組みや
リングなどの方が
使いやすい

